

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1 日発行
平成 27 年 3 月号

流通情報



若手が大田市場に大集合！知事と一緒に春野菜を P R

県流通販売課
首都圏マーケティングセンター
副主査 大屋敷亮輔

東京都中央卸売市場大田市場で、春野菜の本格出荷に向け、森田知事による県産春野菜のトップセールスを開催しました。当日は知事と若手生産者等による P R の他、菜花や春だいこんなど、旬の食材を使った試食を振る舞い、県産春野菜の鮮度や美味しさを多くの買参人に印象付けることが出来ました。

2 月 6 日の早朝、森田知事は J A 全農ちばをはじめ生産者団体と共に、東京都中央卸売市場大田市場で「千葉の産地大集合！若さで挑む」千葉県野菜春の陣と銘打ち、春野菜のトップセールスを実施しました。

会場では、菜花や春だいこん、葉たまねぎなどの旬を迎えた春野菜とその加工品やちばエコ農産物計 6 5 品目を東京青果(株)卸売場の特設会場で展示しました。

P R イベントでは、若手生産者が試食品を提供する中、J A 山武郡市の若手職員の司会進行のもと、若手代表 3 名が、思いの乗った自らの言葉で産地を P R し、会場は拍手に包まれました。

県産の菜花のシチューやトマトのサラダに会場が舌鼓を打つ中、知事が到着し、若手生産者・J A 職員にエールを送ると共に、恒例の「旬菜鍋」を知事自ら市場関係者に提供するなどし、会場は大いに賑わいました。

会場の熱気が最高潮に達したころ、多くの買参人を前に、知事の「千葉県！頑張ろう！」の発声を合図に、「エイエイオー」の三唱を行い、春野菜の出荷に向けて会場が一体となりました。

また、続いて東京荏原青果(株)の卸売場に向かい、千葉県産春野菜のより一層の御愛顧をお願いしました。

今後とも、より多くの消費者及び流通関係者に、千葉県農産物のファンになっていただけるよう、県、関係機関一体となって、一層 P R に力を入れてまいります。



春野菜の展示 P R



春だいこんに扮した司会の進行で若手代表が P R



知事と若手が力を合わせて「エイエイオー」



九十九里ねぎ連絡協議会による広域産地連携

山武農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 町田 剛史

共通する課題を抱える九十九里沿岸部のネギ産地が連携して課題解決を図るために、九十九里ねぎ連絡協議会が発足しました。広域連携による産地力の強化に向けて、関係機関一丸となった活動が始まっています。

1 同じ課題を抱える3産地

海匝、山武、長生地域の九十九里沿岸部は、日本屈指のネギ産地を形成しています。生産・販売は、3つのJAを中心に展開されており、安定した物量を背景にそれぞれが京浜市場で強い影響力を持つ産地となっています。

しかし、高齢化等から徐々に生産量が減少し始めており、産地規模の維持・拡大が共通した重要課題となっています。さらに、酷暑やゲリラ豪雨で不安定となっている秋冬ネギの夏越し対策、収益性の高い夏ネギの拡大といったネギ生産の振興方向も共通しています。

近年では、隣接した地域にもかかわらず、技術的な交流もごく限られたものとなっていました。そこで、平成 26 年 3 月に JA ちばみどり、JA 山武郡市、JA 長生、JA 全農ちば、(公社)千葉県園芸協会、県生産振興課、県流通販売課、県担い手支援課、農林総合研究センター、海匝・山武・長生農業事務所を構成機関に、広域産地の連携強化を図るための枠組みとして、九十九里ねぎ連絡協議会が発足しました。

2 今年度の活動

実質的な初年度となる本年度は、5月に夏ネギの先進地である海匝地域で視察研修会、8月に山武地域で夏越し対策試験の視察・意見交換会、11月に県野菜品種審査会(ネギの部)での品種検討、12月に規模拡大志向の若手生産者を対象とした茨城県への視察研修会、2月に農機メーカーが開発中のネギ収穫機の実演会を実施しました。また、協議会内に技術部会を設けて、共通する病害虫の注意情報の発信、産地の実情にあった経営モデルの作成、九十九里地域版ネギ栽培マニュアルの作成準備、県内外の産地視察による情報収集等を行いました。

12月の茨城県への視察研修会には、九十九里地域を中心に46名の若手ネギ生産者が参加し、大規模経営を行う農業生産法人のライン化された調製場、雇用導入により一戸当たりの経営面積を拡大している岩井地域の視察を行いました。視察研修中に行った今後の経営に関する意向調査では、多くの若手生産者が規模拡大とそれに伴う省力化機械の導入、農地

の集積、雇用の導入等を目指していることが明らかとなりました。今後、この調査結果を基に、地域の中心となる若手生産者への支援を進めていきます。



ライン化された調製設備に注目の若手生産者
(茨城県視察研修会)



農機メーカーが開発中のネギ収穫機の実演会

3 今後に向けて

栽培技術の課題への広域的な取組に併せて、ネギ経営で労働時間の7割程度を占める収穫・調制作業の効率化や雇用導入システムの検討も始まっています。さらに、JA全農ちばの主導で、広域産地による販売力の強化を視野に入れた活動も期待されます。「ネギの有名産地と言えば九十九里」と誰もが認める産地を目指して、今後も生産者、関係機関が同じ方向を向いた活動を続けていきます。

頑張る産地



連携活動で取り組むやまといも産地の活性化

香取農業事務所 改良普及課
上席普及指導員 引地 睦子

香取農業事務所では、平成 25 年度から印旛農業事務所、JA 全農ちばと連携し、やまといも産地の活性化を目指し活動しています。平成 27 年 1 月、初めての情報交換会（主催：千葉県大和芋生産出荷連絡協議会、後援：JA 全農ちば、公益社団法人 千葉県園芸協会）の開催につながりました。

1 はじめに

千葉県のやまといも栽培は、昭和 15 年に佐倉市ではじまりました。昭和 30 年代～40 年代にかけて北総台地を中心に各地で産地が形成され、昭和 55 年に千葉県大和芋生産出荷連絡協議会が設立されました。（※出展：「千葉県野菜園芸発達史」）

2 やまといも産地の課題

歴史ある千葉県のやまといも栽培ですが、生産者の高齢化により急激な面積減少が懸念されています。産地の維持には、担い手農家の確保と個々の農家の面積拡大が必要です。やまといもの作業は特に年明けから、収穫、土壌消毒、定植と続き、これらの作業が出荷調製作業と重なり、出荷量が少なくなっています。

また、青森県などから出荷されているながいもは、やまといもの 5 倍以上の出荷量があり、売り場で競合が心配されるため、その動向に注意が必要です。

（図 1）

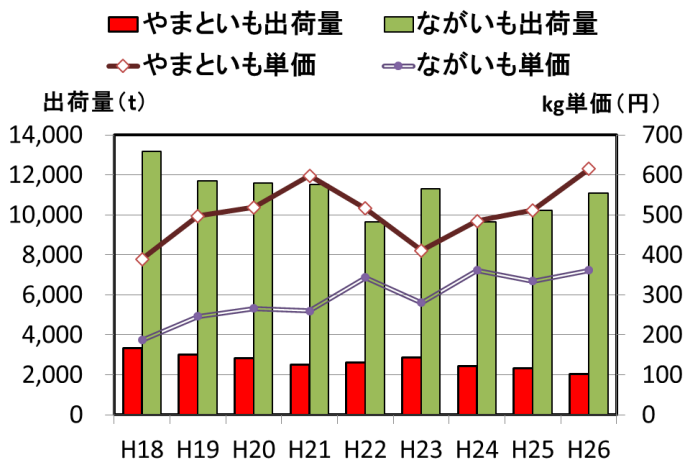


図 1 やまといも及びながいもの出荷量と単価の推移（東京中央卸売市場）

3 連携活動の経過

平成 25 年度から印旛・香取農業事務所、JA 全農ちば園芸販売課並びに営農担い手支援課が連携し、「作業の省力化」・「生産性の向上」・「販売力の強化」を柱とした連携活動を行っています。

省力化と生産性の向上については、他産地の事例や機械メーカーの情報収集を行いました。また、土壌消毒効果の向上と機械収穫を目指した白黒マルチ高畝栽培試験を現地 2 か所で実施しました。（写真 1）



写真 1 白黒マルチ高畝栽培検討会の様子

販売面からは、主要市場担当者及び仲卸担当者として「千葉県産やまといも」の品質評価や需要拡大について情報交換を行いました。

4 千葉県大和芋生産出荷連絡協議会との連携

JA 全農ちばと検討を重ね、千葉県大和芋生産出荷連絡協議会の活動として担い手育成に取り組むこととなりました。1 月 27 日には JA 千葉みらい、JA かとり、JA 多古町、JA ちばみどりの 4 部会による初めての情報交換会が、JA 多古町を会場に開催されました。そこでは、千葉県農林総合研究センターから品質向上に向けた取組についての情報提供、農業事務所から連携活動の報告、あわせて省力化機械の実演も行われました。（写真 2）



写真 2 土壌消毒後のマルチはぎとり機実演の様子

5 今後に向けて

情報交換会に参加した若い生産者からは、産地を越えた情報交換に前向きな意見が出てきました。農業事務所では、今後も担い手の交流を通じてやまといも産地の活性化を目指します。

頑張る産地



花と緑の展示会 2015 春 in ちば ～花き生産者の力を結集し、初の本格的な春開催！！～

君津農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 市東 豊弘

千葉県内の花き生産者（切り花、鉢花、観葉、鉢植木）が、品目と地域を越えて集まり、自ら生産した一押し緑や花々たちを紹介する展示商談会が、かずさアカデミアホールで行われました。今年、「花と緑の仕事初めは「ちば」から」をテーマに、多数の市場・卸・小売店等の関係者、フローリストが集いました。

1 花と緑の展示会 2015 春 in ちばの開催

2月6日（金）、千葉県の豊富な花き品目（切り花、鉢花、観葉、鉢植木）の生産者 38 団体 70 名により展示商談会が開催されました。当日は、市場・卸・小売店等の 82 社 117 名と関係機関等の見学者 43 名がゲストとして参加し、積極的な商談や情報交換が行われました。例年、10 月（鉢花生産者中心）と 2 月（切り花生産者中心）に開催されていましたが、これまでにない新たな商材を PR するため、装いも新たに 2 月に鉢花・切り花生産者合同開催の運びとなりました。昨年も春の開催を計画していましたが、2 月の大雪のため中止になり、今年は 2 年分の熱気あふれる展示会となりました。会場には、フラワーデザイナーの飯野正永氏による、出展者が生産した 20 種類以上の花々をちりばめた高さ 2m ものディスプレイが飾られました。自らの生産物が一つのデザインになる姿に出展者たちからも感嘆の声が上がっていました。



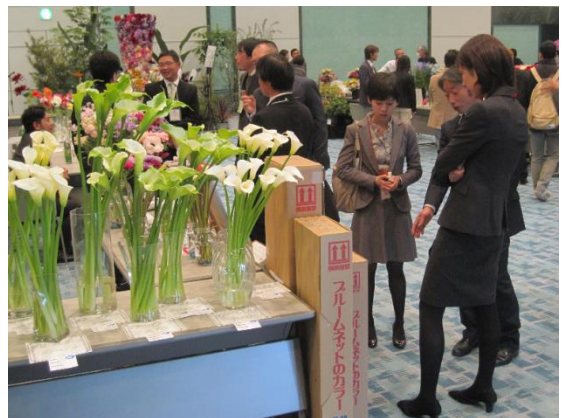
飯野氏によるアレンジメント実演

2 展示会の企画運営について

「花と緑の展示会」は、生産者と販売関係者との信頼関係を深め、有利販売につなげていくことを目的に、県内花き生産者の有志が平成 15 年に設立した「ちば花と緑の会」（会員 38 名）を中心に実行委員会形式で開催しています。杉谷一弥実行委員長（JA きみつブルームネット代表）のもと 12 名の実行委員で構成し、中でも若手後継者 9 名が、積極的に会を運営してきました。実行委員会では、海匠及び君津農業事務所花き担当者も交えて、展示会に関する様々な話し合いにとどまらず、夜遅くまで花き業界の今後について熱い議論が交わされました。

3 今後の取り組みについて

この展示会は、花きの PR や商談の場としてだけではなく、花き業界の様々なゲストと触れ合うことで業界全体の情報交換や新しい生産のヒント、目標を見出す良い機会になっています。今後もより多くの生産者が展示会に参加し、自らの商品を積極的に売り込むことで時代やニーズに合った生産・販売活動につながっていくことを期待しております。



全等級そろった湿地性カラーを PR



イチジク挿し木の成功率アップ

千葉県農林総合研究センター 果樹研究室
主任上席研究員 平井 達也

イチジクの挿し木では、挿し穂の地上に出る部分にパラフィン系テープを巻きつけると活着と苗木の生育が良好になります。これにより 3 月下旬～5 月上旬の挿し木で 90%以上の活着率が得られます。また、これまでは挿し穂に向かないといわれていた先端部の細い枝も利用できます。

1 苗木の自家増殖のメリット

近年、イチジクの産地ではイチジク株枯病の発生が大問題となっています。本病は土壌伝染するため、1 樹が感染するとその後急速に圃場内に拡大し、成木も枯死に至ります。病原菌は主に苗木によって外部から持ち込まれるため、未発生地圃場から採取した穂木を用いて未発生地で増殖することが有効な予防手段となります。

また、自家増殖はコスト削減にもなるので、ぜひともチャレンジしてみてください。

2 パラフィン系テープを利用した挿し穂の乾燥防止対策

露地でイチジクの挿し木を行うと、活着しなかったり、活着しても生育不良となる場合があります。原因のひとつとして、挿し木後の挿し穂の乾燥が考えられます。挿し穂の乾燥防止対策として通常挿し穂の上切断面にろうやボンドを塗布しますが、十分とは言えません。そこで、より確実に乾燥を防ぐパラフィン系テープ（商品名：ニューメダル、写真 1）の効果について紹介します。



写真 1 パラフィン系テープを巻き付けた挿し穂

(1) 活着率の向上

3 月下旬、4 月中旬、5 月上旬に挿し木を行ったところ、それぞれの時期においてパラフィン系テープを巻いた挿し穂の活着率が 90%以上となり、慣行のろうを塗布した場合より平均で 10 ポイント以上向上しました。特に、5 月上旬の挿し木では活着率の向上効果に加えて、活着後の苗木の生育も改善されました。

(2) 枝先端の細い部分も有効活用

通常、挿し穂には 1 年生休眠枝の中間部もしくは基部を用い、先端の細い部分は活着率及び苗木の生育が劣るため使用しません。しかし、パラフィン系テープを用いることにより、枝先端の細い部分も活着率は 90%以上となり、挿し穂として有効活用できることが明らかとなりました。

3 その他の注意点

挿し床には必ず黒ポリマルチを展張して下さい（写真 2）。わらをマルチに用いると挿し床の地温を下げ、苗木の生育不良を招きます。

具体的な挿し木の手順は、平成 21 年度フィールドノート「イチジクの優良苗木を育成するには」(<http://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/field-h21/ichijiku.html>)をご覧ください。



写真 2 黒ポリマルチを展張して挿し木

平成 26 年度「千葉県植木伝統樹芸士」及び「千葉県植木銘木 100 選」の認定について

県生産振興課園芸振興室

千葉県は、出荷額日本一の植木の産地で、植木の輸出額は年々増加しています。

本県の植木生産を支えている造形技術を保存し、後世に伝承していくために、平成 14 年度から「千葉県植木伝統樹芸士」及び「千葉県植木銘木 100 選」を認定しています。

平成 26 年度については、新たに植木伝統樹芸士 2 名、植木銘木 100 選 7 本を認定いたしました。

○平成 26 年度新規認定
千葉県植木伝統樹芸士

認定番号	樹芸士氏名	住所
第 50 号	大木 忠	匝瑳市
第 51 号	齋藤 隆男	匝瑳市

○平成 26 年度新規認定
千葉県植木銘木 100 選

認定番号	樹種名	所在地
第 75 号	イヌマキ	匝瑳市
第 76 号	イヌマキ	匝瑳市
第 77 号	アカマツ	匝瑳市
第 78 号	アカマツ	匝瑳市
第 79 号	カリン	匝瑳市
第 80 号	クロガネモチ	東金市
第 81 号	コウヤマキ	成田市



千葉県植木銘木 100 選第 75 号

第 64 回関東東海花の展覧会開催結果

県生産振興課園芸振興室

第 64 回関東東海花の展覧会が、1 月 30 日～2 月 1 日の 3 日間、サンシャインシティ文化会館（東京都豊島区池袋）で開催されました。

花き品評会では、関東東海地区 1 都 11 県から花き生産者の技術の粋を集めた切花や鉢花、観葉植物、洋らんなど 1,782 点（うち千葉県 210 点）の出品がありました。

本県の生産者 2 名が農林水産大臣賞を受賞した他、多くの方が入賞し、本県生産者の技術の高さがかがえましました。（本県の受賞者は以下のとおり。）

また、本展覧会は、消費者の花に対する理解を深め、一層の花の消費拡大を図ることを目的として開催されており、品評会の出品品や当番県（茨城県）による特別展示、フラワーデザインコンテストの作品等、様々な花で会場が埋め尽くされました。



各都県の秀品が並ぶ品評会会場

第 64 回関東東海花の展覧会 花き品評会
千葉県内特別賞受賞者一覧

特別賞名	部門	氏名	市町村名
農林水産大臣賞	一般切花	早川 剛司	南房総市
	球根切花	柴崎 利幸	君津市
農林水産省生産局長賞	カーネーション	正木 竜一	南房総市
	一般切花	小澤 昌志	旭市
	観葉植物	(有)飯田グリーン	香取郡東庄町
全国農業協同組合中央会長賞	球根切花	柴山 明彦	南房総市
	一般切花	坊田 聡子	南房総市
日本花き卸売市場協会会長賞	球根切花	(株)金井園芸	南房総市
	一般鉢物	平野 晃久	旭市
	洋らん	藤岡 広明	南房総市
千葉県知事賞	カーネーション	渡邊 健一郎	安房郡鋸南町
農林水産省関東農政局長賞	球根切花	太田 喜明	館山市
日本花き生産協会会長賞	一般切花	小泉 輝子	南房総市
関東地域花き普及振興協議会長賞	球根切花	生駒 道雄	山武郡芝山町
千葉県花き園芸組合連合会長賞	一般切花	宮久地 一雄	南房総市
東京花き共同荷受株式会社社長賞	一般切花	行方 弘美	南房総市
誠文堂新光社「農耕と園藝」賞	球根切花	長田 英二	君津市
園芸文化協会会長賞	一般切花	滝原 早苗	鴨川市
サンシャインシティ代表取締役社長賞	カーネーション	三井 幹夫	南房総市
日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞	一般切花	吉田 正	館山市
	球根切花	秋葉 雅恵	山武郡芝山町
	球根切花	川上 昌之	鴨川市
日本花き卸売市場協会東海支所長賞	一般鉢物	吉田 良和	いすみ市
日本フラワーデザイナー協会理事長賞	一般切花	(株)金井園芸	南房総市
日本生花通信配達協会会長賞	球根切花	森下 正之	富里市
日本種苗協会会長賞	花苗	市原 勝吉	千葉市
日本花普及センター会長賞	カーネーション	海寶 正一	香取郡東庄町
家庭園芸肥料・用土協議会長賞	カーネーション	杉本 吉孝	南房総市